

## 2026年3月1日（日）第1礼拝「あわれむ者」マタイ5章7節

あわれみとは、困っている人を助けることです。あわれみは神様の品性であり、私たちには本来ありません。人は墮落してあわれみを失い、その心は貧しくなったからです。そのため、私たちは義に飢え渴き、イエス様にあわれみを求めるのです。そのような私たちに神様は「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。」と言われます。また、私たちが悲しむ時に慰められ、義に飢え渴く時に満ち足りると約束してくださっています。

第一番目、神様のあわれみを求めなさい。私たちに向かう神様の心は、あわれみです。神様の御座は「ラハム」と言い、その派生語は「レヘム」、子宮という意味です。母親の子宮は、神様のあわれみを表しています。子宮は、赤ちゃんが最も安全で守られている場所です。赤ちゃんはへその緒を通して栄養が与えられ、母親のいのちを共有しながら育ちます。この子宮のように、神様のあわれみは私たちを保護し、必要のすべてを与えてくださいます。私たちに愛も、あわれみもありません。ですから、神様の恵みの御座に近づき、あわれみを求めるのです。「…私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」（ヘブル4：16）

第二番目は、主の御心です。主の御心は、私たちがあわれむ人になることです。王から一万タラントの借金を赦してもらったのに、自分の仲間を赦さなかったしもべがいました。王は「私がおまえをあわれんだように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。」と言い、その人を獄吏に入れてしまいました。もし、心から兄弟を赦さないなら、私たちもそのしもべと同様になってしまいます。イエス様はご自分のいのちをもって、私たちの罪や傷、心の貧しさ、呪いを支払い、「テテレスタイ(完了した)」と言われました。主が私たちをあわれんでくださったように、私たちも人にあわれみの心を持つことを主は願われています。

第三番目、あわれみの筋肉です。あわれみの筋肉をつけるには、敬虔の訓練が必要です。一つ目は、私たちが神様の子宮の中にいる赤ちゃんであることを知ることです。羊水に包まれる赤ちゃんのように、私たちは神様のあわれみの中に深く沈んでいます。たとえ失敗しても、私たちを責める者はいません。イエス様が姦淫の現場で捕らえられた女性に「あなたを罪に定める者はなかったのですか。わたしもあなたを罪に定めない。」と言われたように、私たちが主に愛され、赦されていることをいつも感じる事が大切です。自分に怒り、自分を責めている人がいても、外面的な姿で判断するのではなく、その人の内なる人が過去にどんな傷を受けてきたかを知るなら、その人をあわれむことができます。二つ目に、「私は間違っていない」と主張したくなる時、三秒待ち、相手を批判する権利を放棄することが大切です。三つ目に、小さな親切を実践することです。例えば、落ちこんでいる友人に一杯のコーヒーを買ってあげるなどです。ヨセフは兄弟から殺されそうになり、エジプトに売られましたが、エジプトの宰相となった時、兄弟たちを赦し、慰め、優しく語りかけました。ヨセフのように、日々の小さなあわれみの訓練で、最終的に人を深くあわれむ者とされるのです。